



創立60周年記念事業 (有)新小倉自動車^が車両を寄贈

永吉にある(有)新小倉自動車から町に車両2台が寄贈され、10月13日(金)、東町長が感謝状を贈呈しました。

これは、同社が9月1日に創立60周年を迎え、その記念事業として、軽自動車1台と軽トラック1台を寄贈したものです。

新小倉龍一社長は「これまで町民の皆さまに支えていただき、60周年を迎えました。100年に向けて、大崎町で頑張っていきたいと思います。車両2台を町政にお役立てください」と話されました。

寄贈された車両2台はそれぞれ役場と町シルバー人材センターに配置し、保健福祉行政の推進に活用されます。



太平洋カリブ海の記者が 大崎町取材

10月17日(火) から19日(木) の3日間、太平洋^{とうしよこく}島嶼国地域およびカリブ地域を中心に国際開発協力をおこなっている一般社団法人国際協力推進協会(APIC)が、両地域から記者を招き、環境・防災分野で日本が有する知見と技術取材しました。

今回本町を訪れたのは、外国人記者の支援をおこなうフォーリンプレスセンターの職員と、トリニダード・トバゴ、フィジー、グアムなど計5か国の記者で、集落での資源ごみ回収の様子やそおりサイクルセンターなどを視察しました。また、18日(水)は、大崎小学校を訪れ、6年生と交流しました。交流会では、同校が取り組んでいる「大崎ピカレンジャー大作戦」について児童が英語で紹介し、視察団は取組に興味を持っている様子でした。給食の時間は、児童はこれまでの授業で習った英語を使い、会話を楽しんでいました。

ライアンさん(トリニダード・トバゴの記者)は「子どもたちが広い心で歓迎してくれて、心が温まりました。リサイクルを幼い頃から経験し、地域を守るということを理解していると思いました」と話されました。

